

明けましておめでとうございます

川崎幸病院「泌尿器科レーザー治療センター」開設

～患者が医療を選ぶ時代にむけて～

川崎幸病院中原分院 院長 林 哲夫

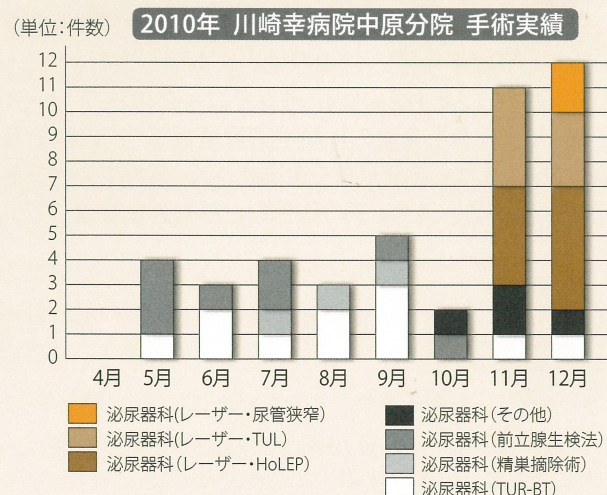
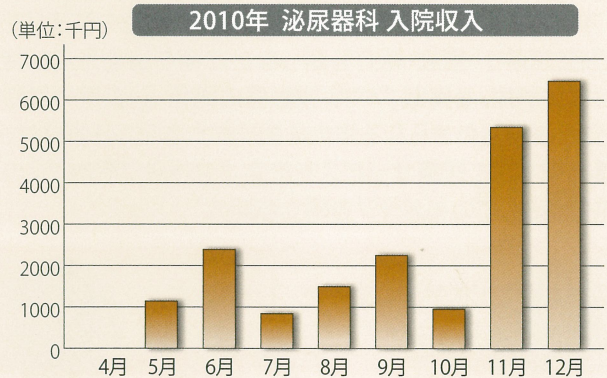
2010年11月1日「川崎幸病院泌尿器科レーザー治療センター」を中原分院に開設いたしました。かねてより要望の強かった泌尿器科疾患に対するレーザー治療を新病院開院を待たずに前倒して開始することとなったのです。おかげさまで、開設当初より手術件数・紹介患者数も順調に右肩上がり推移をし(表参照)、地域に於けるニーズの確かさを実感しています。

さて、当センターの治療対象疾患は前立腺肥大症、尿管狭窄、尿道狭窄、尿路結石等です。中でも欧米を中心に始められた前立腺肥大症に対する画期的な内視鏡(経尿道的)下治療=ホルミウムレーザーを用いた治療が当センターの目玉となります。

ホルミウムレーザーでの治療は、組織の深部に熱の影響を与えずに、表面で切開と止血が同時にできるのが最大の特徴であり、出血量が少ない/術後のカテーテル留置期間が短い/入院期間が短縮される/従来開腹手術を余儀無くされていた巨大な前立腺肥大症も内視鏡下で手術可能等、患者に対して様々なメリットが有る治療です。

昨今、「患者が医療施設を選ぶ時代」と叫ばれていますが、これは言い換えれば、「患者が、医療により高い付加価値を求める時代」なのだと考えております。「川崎幸病院泌尿器科レーザー治療センター」は、「患者が医療を選ぶ時代」に、まさにマッチした高い付加価値を実現するセンターであり、新病院の5つ目の中軸的医療センターとして飛躍すべく、今年を当センターの助走の年にしていきたいと願っている次第であります。

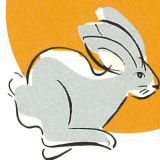
(ホームページ参照：<http://www.sekishinkai.or.jp/saiwaihp/laser/>)



本誌タイトル『海燕』は、M.ゴーリキーの散文集『海燕の歌』(1901)に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海、戸惑い騒ぐばかりの鷗らの群れを尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

年頭所感



未来を先取りしよう!

理事長 兼 川崎幸病院 院長 石井 暎禧



非営利の組織を含む企業の力と言うものは、究極のところ、「人を集める力＝募集力、人を育てる力＝教育力」に帰結するというのは、経営学の世界では常に言われるところです。今、日本では、人口ピラミッドが「現役世代の減少」「高齢者の激増」によっていびつな形になっていて、そのためにデフレと呼ばれる経済の縮小化現象が社会に大きなマイナス要因として働いています。この影響は、医療経営体にとっても必要な労働力の確保が一層問われる時代の到来を意味しています。私たちは、この様な、すでに起こっている未来をしっかりと見据え、今年は、より一層「募集力」「教育力」に磨きをかけることを方針にしたいと思えます。

レーザー治療センター
飛躍の一年に向けて

川崎幸病院中原分院 院長 林 哲夫



昨年開設しました「泌尿器科レーザー治療センター」の飛躍の年にしていきます。症例数の拡大はもちろん治療の質の更なる向上を図り、新川崎幸病院の目玉となるセンターにすべく邁進してまいります。また新病院に向け現幸病院と中原分院の交流を一層深め、新病院開設と同時に良いスタートダッシュができるよう準備していきたいと考えております。

新川崎幸病院の外来部門と
してのイメージを確立する1年!

川崎幸クリニック 院長 杉山 孝博



開院13年目に入り、地域からの信頼の一層の高まりを肌で感じる中、「救急・紹介を断らない診療」「患者さんを待たせない診療」を実践すべく、常勤医の確保、診察室の増設など、診療機能のさらなる強化を図ります。また、健康講座、看護外来などの医療サービスを充実させ、新川崎幸病院の外来部門としてのイメージを確立します。

先見性のある事業コンセプトを
確立する一年に

川崎クリニック 院長 宍戸 寛治



①川崎幸病院移転に伴う透析室の増床及び腎センターの設立〔2012年4月〕。②中原地区における透析クリニックの新設〔2012年秋〕。③川崎クリニックのリニューアル〔2013年〕。何れも今後の川崎地区腎透析部門の根幹となる事業です。これらを滞りなく完遂すべく、事業コンセプトの確立、設備設計、スタッフの確保などを強力に推進していきます。

開設11年目を迎え心機一転!
さらなる飛躍の年へ

さいわい鹿島田クリニック 院長 朝倉 裕士



開設10年が経ち、外来部門は、がん検診や生活習慣病の管理に加え、幸病院の外来の一役を担い、益々充実してまいりました。透析部門は、登録患者が220名を超え、幸区唯一の維持透析施設として欠かせない存在に成長しました。11年目にあたり一部の医療機器が更新時期を迎えますが、スタッフ一同も気持ちを新たに地域医療に取り組む所存です。

医療の質を第一に考え、
『改善』の一年に

アルファメディック・クリニック 院長 塚田 一義



おかげさまで受診者数は増加しています。しかし、受診者数が増えたことを理由に医療の質が下がっては本末転倒です。顧客サービスの追求も大事ですが、「健診事業の本分はあくまで医療」です。医療を第一に考え、診断の精度の一層の向上を目標とし、設備投資やシステム面・業務面の見直しを図り、今年を更なる『改善』の一年にしてまいります。

地域住民に開かれた健診施設を
目指して

川崎健診クリニック 院長 清川 忠男



営業活動が実を結び、企業向け健診件数は着実に増加している。一方、近年乳がんの増加が気になる主婦層などの開拓には課題を残している。企業健診数を伸ばし「数で勝負する」とともに、新たな客層開拓に向けたサービスの質の更なる向上を追求し、「地域住民が気軽に安心して受診できる健診クリニック」を目標とし、地域の健康増進に貢献したい。

「最先端医療の追求」と
「地域医療の充実」の
二つの車輪をまわして

新緑脳神経外科 院長 横田 尚樹



サイバーナイフ症例数の早期4000件達成を目標とするとともに、症例をまとめて外部に発信するなどの、日本一の症例数を誇るセンターとしての使命を果たしていきます。同時に、横浜市では高齢者が最も多い旭区に位置する外来クリニックとして地域貢献も忘れてはなりません。「最先端の医療」と「地域密着の医療」の二つの車輪をまわしていきます。

人材を大切に、中核病院として
さらなるレベルアップを

狭山病院 院長 野本 栄



診療部をはじめ、狭山病院のレベルアップを図り、現状よりも「少しでも前に進んでいく」という気持ちでこの一年を進んでまいります。そのために、院外での各種研修への積極的参加などの「教育」面での充実を図る一方、各個人が何を考えているかをヒアリングし、積極的に意見を登用することも大切だと考えます。もうひとつは、就業環境の整備をしていきます。職員が気持ちよく就業できる環境を構築しなければ、人材の成長はないと考えます。以上のように「何よりも人材を大切に」、各個人のレベルを上げることで、「地域完結型医療を体現できる中核病院」としてさらなるレベルアップを図っていきます。

健診部門に注力し、地域の
「健康への意識向上」を図る

さやま総合クリニック 院長 河村 正敏



一般外来部門は充実してきている中、健診部門に特に注力する一年にしてまいります。受診者数の増加、医療の質の向上はもちろんのこととし、例えばがんの発見率などの健診データを数値化して「情報の発信」をしたり、市民公開講座を開くなどし、地域住民の健康への意識の高まりを促すかたちで、「地域の中核病院の外来部門」として地域の健康増進に貢献してまいります。

患者への「真にやさしい医療」の
提供を追求して

さやま腎クリニック 院長 松尾 英徳



真の「患者へのやさしさ」とは何か?このテーマを追及する一年にしたいと思います。患者の立場に立ち、「当たり前」のことを当たり前に行う。実は非常に難しいことである。患者一人一人に心の通った医療を提供するとともに、狭山病院と連携し、必要に応じて入院や他診療科の医療をスムーズに提供できる「患者主体の医療」を追求します。

今年も良き一年を

立川新緑クリニック 院長 高遠 清太



昨年9月に院長に就任して初の年越しを無事迎えることができました。旧年中は多くの皆様のご支援をいただき誠にありがとうございます。今年は、クリニックの改装やMRI導入が決まっております。早速、今月中旬から工事が始まり、リニューアルオープンが待ち遠しい今日この頃です。今年もよろしくお願い申し上げます。

「人材の確保・育成」こそが
最良の医療の原動力

昭島腎クリニック 院長 栗本 義直



①患者の個性に適合したサービスを目指し患者の自立を促す。②職員間のコミュニケーションを密にし事故を未然に防ぐことで患者の信頼を獲得する。③最新の透析医学と経験を以って高度医療を提供する。以上を基本におきながら、「人材の確保・育成」を重点項目とし、その基盤の上にクリニックの増床などを視野にした一年を送ってまいります。

「トップダウン」から
「ボトムアップ」の組織へ

立川介護老人保健施設「わかば」 施設長 窪田 惺



今年は「トップダウン」ではなく、「ボトムアップ」の組織への脱皮を目指します。職員の自発性を促し、「自ら考える力」を養い、若い芽が育ちやすい職場環境を作っていきたいと考えています。また、自治体、在宅介護事業所部門との「横の連携・協力体制」をより密なものにし、地域の介護医療の中核として一層の地域貢献をしていきたいと考えています。

新制度へ向けての準備と
継続の1年!

在宅事業部 地域ケアコーディネーター 清崎 由美子



介護保険制度創設から10年が過ぎ、平成24年度には、医療保険と介護保険の同時改定が実施され、大規模な変革期を迎えます。在宅部門では、改定情報をいち早くキャッチし「円滑に新制度へ移行するための準備をする」ことが最大の目標です。「今必要なことをしっかりと継続して、強靱な土台作り」をし、新しい風にも動じない事業所を目指します。

個々の介護レベルを向上し、
地域福祉の中核施設へ

特別養護老人ホーム「オリーブ」 施設長 栗林 忠美



昨年に引き続き、職員に対し具体的な研修や勉強会を実施し、現状の人材の育成に注力することで介護レベルの底上げを図ります。個々の介護レベルを向上させることで、在宅介護や介護相談業務など各種介護サービスの品質を向上し、地域福祉の中核施設としての地位確立と更なる飛躍を目標に掲げ、地域に一層の貢献をしていきたいと考えております。



立川介護老人保健施設「わかば」で ホームヘルパー2級課程養成セミナーが開催されました。

昨年の9月18日から11月19日にわたって、立川介護老人保健施設「わかば」で東京都指定「ホームヘルパー2級課程養成セミナー」が開催されました。受講者は19名、その多くが「わかば」近隣の医療・介護施設の職員の皆さんで、「わかば」の保科事務長は、「このセミナーをつうじて近隣施設との連携をさらに促進し、自施設の運営強化はもちろん、地域福祉に対してもいっそう貢献したい」と語っています。



サイバーナイフセンター NOW!

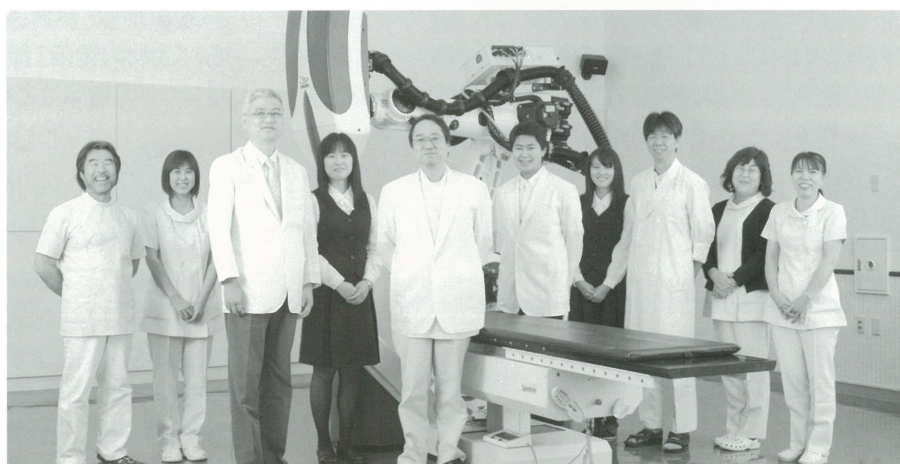
新緑脳神経外科 院長 横田尚樹

昨年サイバーナイフ治療3,500症例を達成し、国内随一の実績を誇る当センターが、2月に、埼玉医大に次ぎ国内2施設目となるサイバーナイフでの肺がんの定位治療を実施する予定となりました。

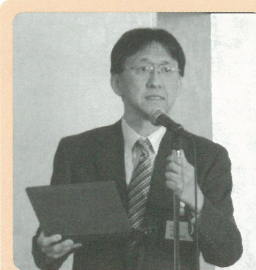
もちろん、国内ではまだ症例数が少ないこの治療法が実現するまでの道のりは平坦なものではありませんでした。2008年6月に体幹部病変に対する治療が厚生労働省に認可されてから、体幹部治療に向けた具体的な準備が始まりました。装置のバージョンアップ、新たなソフトウェアの導入、装置のテクニカル面での検証など、苦心の日々が続きましたが、サイバーナイフセンターの全職員

が一致団結した結果、ここまでたどり着けたのだと自負しております。

今後の展望として、治療領域のさらなる拡大、症例数のさらなる増加を目指し、日本随一のサイバーナイフセンターとしての使命を全うしていきたいと考えております。



グループ新年会が 開催されました



栗本院長
「連携を促進し、
目標に邁進」

●東京石心会(1月8日)



永年勤続表彰



石井理事長
「全事業所一丸となって
取り組む年」

●石心会川崎地区(1月14日)



永年勤続表彰



青山統括院長
「全職員が
心をひとつにして前進」

●石心会狭山地区(1月14日)



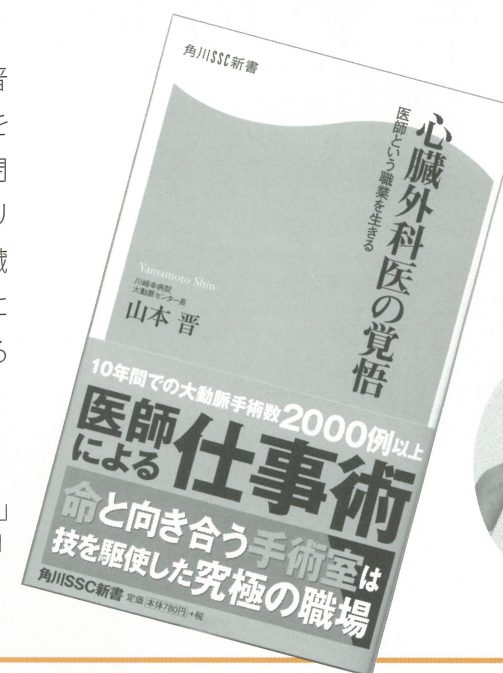
永年勤続表彰



川崎幸病院 大動脈センター長 山本晋先生の著書 「心臓外科医の覚悟-医師という職業を生きる-」が出版されました。

20数年にわたって患者の命と向き合ってきた山本晋先生が、医師としての倫理観や患者とのかかわり合いを自身の経験をとおして語ることで、現在の医療界の閉塞状況にも一石を投じる本になると思われます。アメリカ留学時代の若き山本医師が、世界のトップをゆく心臓外科医の手術に年間500例以上立ち会い、その全てに克明な記録をつけていたことなど、先生の現在にいたる道のりを知ることもできます。

「心臓外科医の覚悟
-医師という職業を生きる-」
角川SSC新書 価格 819円



川崎幸病院新築移転 計画・工事進捗状況 (2010年12月末日現在)

タワークレーンが設置され、いよいよ地上階の工事が始まりました。



タワークレーンと
1階「立ち上がり」工事

趣味
探訪

万年筆の味わい

まごころ薬局 薬剤師 今井 知博



私にとって、それははたして
使うことなのだろうか、
それとも集めることなのだろうか。

ペンケースには、インクを入れ、いつでも使用可能な状態の万年筆が五本は並んでいる。

ペン先の字幅もそれぞれ細字から極太字まで様々。それらを筆記目的に応じて使い分ける。ペンケースに入りきらない待機組の万年筆もあるため、月に一度はインクを抜き、それらと入れ替える。インクにも様々な色味があるため、万年筆の軸の色と合わせたりして使っていた時期もあったが、いつしか常用するものは限られてきた。しかしそれでも、新しいインクや季節限定インクが発売されると買ってしまう……。

生来の左利きを、行儀が悪いからという理由で右に矯正された私にとって、筆の持ち方と鉛筆の持ち方はいくら練習しても上手くならず、よく親を恨んだものでした。



それでも、もうすでに左に戻してもどうにもならない年齢にまでなってしまったため、できるだけ人目につかないようにそれらを使っていました。私が早食いなのは、そういう理由もあったりするのです。

転機は高校入学祝いとして叔父からもらった万年筆・ボールペン・シャープペンシルの三点セットでした。これは当時の贈り物として定番ではありましたが、「万年筆を使えば、綺麗な字が書けるのではないか?」と思ひこむのに十分なほど、高級な筆記具は私の目に魅力的に映ったのです。

ただこの万年筆、なかなか上手いということを聞いてはくれません。筆記角度によってインクが出たり出なかったり。また、力を入れるとペン先がぐにゃりと曲がったり、開いてインクがドバツと出たり。そこで、特訓となるわけです。

高価な筆記用具を使っているのに字が上手くないということは、自分の書き方・使い方が悪い。上手く使えば絶対に上手い字が書ける! ものすごい勘違いと思ひこみ。



でも、それだけ自分の書く文字にコンプレックスを持っていたわけです。

まず、家庭学習においてはすべて万年筆を使って書く。さらには、中学入学の時からつけていた日記をすべて万年筆で書くようにしました。

あとから知ったことですが、万年筆というものは使っているうちにペン先に書き癖がついて馴染んでくるものなのです。「女房と万年筆はひとに貸すな」という言葉もあるくらい、一生使い続けられる相棒なのです。

日々万年筆と格闘するうちに、高校・大学・社会人と時間はすすみ、節目節目に一本また一本と、本数も増えていきました。

ちなみに、万年筆は手のひらに隠れる大きさであることから、他の趣味に比べ妻の目から逃れやすくなっています。数本くらいなら増えても気づかれない、のです。ただ残念なことに、普段の仕事においてはインクの乾きが遅いという欠点のため、使えないでいます。

このデジタル時代に、アナログ感あふれるこの嗜好の道具は、もはや趣味の領域にしかその存在場所がないのでしょうか。

それでも、万年筆に刻まれたペリカンの横顔を見ながら日記や手紙を書く自分だけの至高の一時は、なくさないでいたいものです。



読書のすすめ

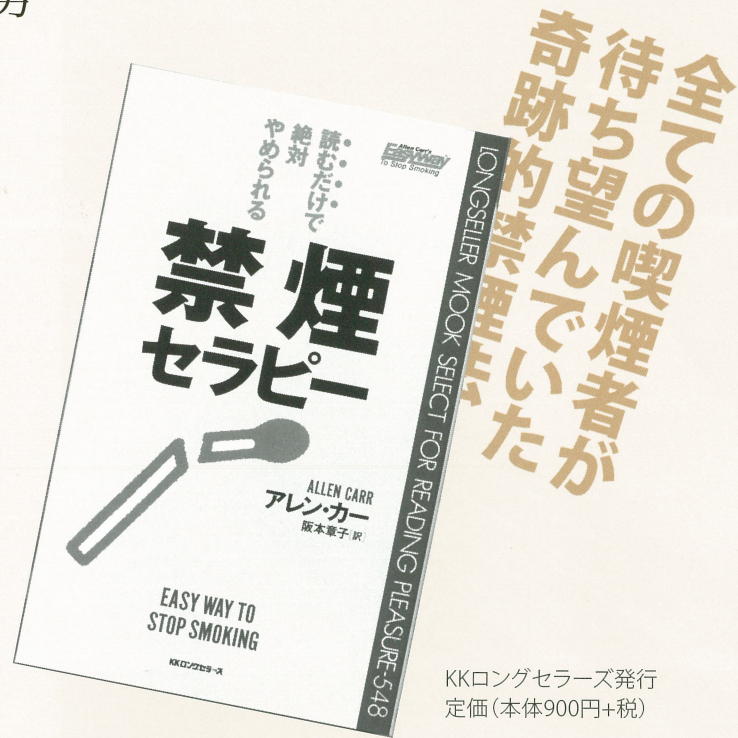
本部事務局長 辻田 征男

読むだけで絶対やめられる 『禁煙セラピー』 Allen Carr 著

私の禁煙歴は、今年で20年になる。一応禁煙に成功したと言って良いと思うが、それまでは、かなりのヘビースモーカーであり、成功に至るまでに10回程禁煙にトライしては失敗して来た。だから、あまり、他人に教訓を垂れるような柄では無いのだが、それだけに全くタバコを吸わない人に比べれば語る資格有りかなと思っている。

今では、きれいに洗った灰皿であっても見るだけで不快なので、それが、飲食店なら、店の人に頼んで撤去してもらっている程のタバコ嫌いである。そんなに、タバコが嫌いなら初めから吸わなければ良かったのと言われてそうだが、そこが、タバコというものの持つ不思議な魔力なのである。

最近、私は、このタバコの魔力に関する興味深い本に出会った。それが、アレン・カーの禁煙セラピーである。



KKロングセラーズ発行
定価(本体900円+税)

ここで、著者について触れておく。

アレン・カー (Allen Carr 1934.9.2-2006.11.29) は、元々イギリスの会計士で有り、33年間タバコを吸い読み、やめる直前には、一日100本を超えるヘビースモーカーであったが、ある時(49歳で)画期的な禁煙法を考え出し、以降世界各地で禁煙クリニックを開催し、その著書は世界的なベストセラーとなったが、長年の喫煙が祟ったのか72歳で肺癌でこの世を去った。

死因については少し滑稽な感がなくもないが、著書の価値を損ねるものではない。

かれの主張の基底を成すものは、禁煙を成功に導くものは、意志力ではなく、タバコと、喫煙に対する正しい認識に他ならないと言うものである。喫煙者が、イライラした時、タバコに火をつけるが、そのイライラ感こそ喫煙がもたらすもので、禁煙に成功すれば、決して訪れる事の無いものであるという下りがあるが、われわれ、禁煙の経験者には、非常に共感できるものである。

禁煙に成功出来ず、お悩みの方には、
ぜひ、一読して欲しい。



Music Salon ミュージックサロン

今回は12月11日に開催された「さやま総合クリニックヘルシーコンサート」の様をお届けします。

この日のプログラムは歌曲やアリアの名曲集。
このコンサートのプロデューサーでもある赤木舞さんのピアノの伴奏にのせて、
海外でも活躍中の工西美穂さんの繊細で伸びやかなソプラノが
美しいメロディーと詩を歌い上げます。
プログラムの中盤では、青山統括院長が登場、力強いバリトンで「花」を披露、
会場いっぱいの聴衆から万雷の拍手を受けました。



- ◇ 会場 さやま総合クリニック3階ピアノホール
- ◇ 出演 工西 美穂(ソプラノ)、赤木 舞(ピアノ)
- ◇ 曲目 シューマン: 幻想小曲集より「夕べに」、ヘンデル作曲: 私を泣かせて下さい
Gブッチーニ作曲: オペラ「ジャンニスッキ」より「お父様お願い」 他

◆演奏家プロフィール

工西 美穂 2006年、2007年にNYカーネギーリサイタルホールにて、The Music NY & Japan 主催の日米ジョイントコンサートに出演。2009年ルーマニアにてオーケストラと共演。Musicacasa Kunishiにて後進の指導にあたり、現在、広島鈴峯女子短期大学保育学科非常勤講師、日本演奏家連名会員。

赤木 舞 米国イーストマン音楽院卒業、同大学院修士課程修了。東京芸術大学大学院にて文化政策およびアートマネージメントを学び、博士号を取得。これまでNYカーネギーホールでのソロ演奏や、すみだトリフォニーホールでのソロリサイタル、中国四川省の成都にて招聘演奏を行う。現在、昭和音楽大学助教。2006年よりヘルシーコンサートの企画を担当している。

☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師(現 副理事長兼狭山地区統括院長)が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニスト ユンディ・リ が練習用に愛用したものです。

川崎幸病院

- 10月 1日 職員向け禁煙セミナー
講師:順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授 / 山本 澄子 参加者22名
- 10月 1日 救急隊勉強会
『循環器疾患の搬送患者の症例報告と胸痛について』
講師:循環器内科 医師 / 高橋 英雄 参加者12名
- 10月 3日 川崎市口腔ケア推進会議講演
講師:看護副部長 / 鈴木 和恵
- 10月14日～16日 日本医療機能評価機構による
病院機能評価更新審査 (ver.6)
- 10月21日 院内保育室ハロウィン
- 11月10日 平成22年度 第4回復職支援セミナー
- 11月11日 奈良県庁講演会『短時間正職員制度導入について』
講師:看護部長 / 佐藤 久美子
- 11月13日～14日 川崎幸病院・川崎幸クリニック・中原分院合同職員旅行
南東北パワースポットめぐり 山形・宮城
- 11月16日 院内保育室感染対策講習会
インフルエンザ対策について
講師:感染管理看護師 / 福島 里美
- 11月25日 臓器移植講習会
講師:神奈川県臓器移植コーディネーター / 中村 晴美氏
(聖マリアンナ医科大学病院 移植医療支援室)
- 12月 2日 神奈川県看護協会医療機関等管理者研修講師派遣
先行事例に学ぶ
『病院における多様な勤務形態の導入の実際
短時間正規雇用等について』
講師:事務部長 / 小林 和彦、看護部長 / 佐藤 久美子
- 12月 9日 院内保育室感染対策講習会
『感染性胃腸炎について』 講師:感染管理看護師 / 福島 里美
- 12月11日 第29回うらおいコンサート
川崎市消防局カラーガード隊 (吹奏楽)
- 12月11日 院内保育室クリスマス会
- 12月13日 新病院病室モデルルームオープン (幸区南幸町3丁目)
開設期間:平成22年12月13日～平成23年1月25日まで
- 12月14日 川崎市看護協会講習会
在宅看護に引き継ぐ退院調整
講師:看護部長 / 佐藤久美子、ディスタチャーシ科長 / 片桐嘉奈子
- 12月17日 横浜市鶴見消防署救急隊との意見交換会
- 12月29日 平成22年納会

川崎幸病院中原分院

- ◆11月 1日 レーザー治療センター開設
- うるおいコンサート
10月30日 第22回うるおいコンサート 合奏 (洗足学園音楽大学 堀越ゼミ)
12月11日 第23回うるおいコンサート 合奏 (ハーモニカバンド)
- 公開講座
10月16日 第25回健康講座『“脳卒中”って何?～予防と治療～』
講師:川崎幸病院 脳神経外科 / 永尾 征弥 参加者73名
11月27日 第26回健康講座
『元気な心臓を保つために!虚血性心疾患の予防と早期発見・治療』
講師:川崎幸病院 循環器科 / 津田 泰任 参加者74名
- 院内勉強会
10月7日 『喫煙の健康に及ぼす様々な影響』 講師:ファイザー株式会社
11月9・16日 『がんに対する化学療法ー胃癌、肺癌、大腸癌、乳癌を中心にー』
講師:中外製薬株式会社
11月10日 『皮膚にかかる圧が体に及ぼす影響』
『皮膚表面にかかる圧への対策』
講師:モルテン健康用品事業本部
12月9・14日 『癌に対する化学療法ー胃癌ー』 講師:中外製薬株式会社

川崎幸クリニック

- 糖尿病講座
10月 6日 参加3名
12月 4日 参加15名
- 気功教室 講師:臨床心理士 / 稲富 正治
・10月28日 参加4名
12月 3日 参加5名

狭山病院

- 10月 8日 狭山保健所による医療法第25条第1項に基づく立入検査
- 10月19日 看護師復職支援セミナー (狭山病院) 参加者 4名
- 10月16～17日 / 23～24日 / 30～31日 (同内容で3回実施) 一泊二日職員旅行
行先:天下の名湯!! 草津温泉とそば打ち体験 参加者 合計165名
- 11月 8日～12日 職員季節性インフルエンザワクチン接種期間
- 11月14日 日帰り職員旅行
行先:ホテルエビナール那須レストラン貸切/バイキング/
那須サファリパーク/トリックアート迷宮?館
参加者 163名 (職員81名、家族82名)
- 11月16日 看護師復職支援セミナー (狭山病院) 参加者 1名
- 12月 4日 保育室クリスマス会 (25家族の参加有り)
- 12月12日 看護研究発表会 (発表 12題、特別発表2題)
- 12月22日 クリスマスキャロル
～職員による聖歌隊 43名が病棟をまわりました
- 12月27・28日 献血 (埼玉県赤十字血液センター主催)
～2日間で120名の方が協力し、内98名が献血実施しました
- 院内勉強会
10月4日 『第1回がんセンターボード狭山』
①チーム医療ワークショップの報告 参加者80名
②アパスチンを使用している患者の症例検討 参加者42名
10月18日 『嘔吐の感染予防対策～ノロウィルスを中心に～』 参加者42名
10月19日 『がん診療の進歩 (5回目) ☆肺癌治療 update』 参加者64名
10月26日 『ソーシャルワーカー室業務と地域ケアセンターの役割を学ぼう』
参加者81名
11月11日 『臨床研究における統計の基本と応用』 参加者28名
11月16日 『がん診療の進歩 (6回目) ☆乳癌薬物療法update』 参加者53名
12月 6日 『第2回がんセンターボード狭山』
～治療拒否患者に対し、医療者はどう関わっていくか～ 参加者70名
12月15日 『がん診療の進歩 (7回目) ☆泌尿器悪性腫瘍の化学療法
☆子宮癌・卵巣癌のupdate』 参加者37名
12月 7日・17日 『医薬品の安全使用について～新規採用薬品を中心に～』
参加者41名
- 地域医療連携・公開カンファレンス
10月15日 『市内感染症における耐性菌対策』
講師:狭山病院 副院長 / 青島 正大 参加者96名
11月 2日 『まやかしてない医療倫理』
講師:群馬大学大学院医学系研究科
環境病態制御系 医学哲学・倫理学教授 / 服部 健司 参加者71名
1月19日 『保存期慢性腎臓病での地域連携について』
講師:狭山病院 内科部長 / 池田 直史
『透析医療に携わって』
講師:さやま腎クリニック 院長 / 松尾 英徳 参加者152名
11月26日 『埼玉県における救急医療の“蘇生”への道』
講師:埼玉医科大学総合医療センター
高度救命救急センター 教授 / 堤 晴彦 参加者88名
12月9日 『急性期病院での脳血管内治療の実際』
講師:川崎幸病院 脳血管内治療科 部長 / 津村 貢太郎
参加者110名

さやま総合クリニック

- 糖尿病教室
10月 7日 『外食・中食、食べ物のあぶら』 講師:管理栄養士 / 森 順子 参加者15名
11月 4日 『糖尿病と合併症・フットケア』 講師:看護師 / 臼井 敏子 参加者20名
12月 2日 『年末・年始の食事』 講師:管理栄養士 / 安達 順子、森 順子 参加者15名

川崎クリニック

- 糖尿病教室
10月 5日 糖尿病性腎症患者の看護勉強会 参加者21名
10月12日 検査データについての勉強会 参加者23名
11月 4日 災害対策勉強会 参加者41名
11月 6日 ドブス勉強会 参加者26名
11月 9日 輸液・輸注ポンプの使用方法について 参加者24名
11月16日 フットケア勉強会 参加者16名
11月20日 感染管理について 参加者31名
11月30日 透析の食事療法について 参加者23名
12月 2日 間歇補液設定勉強会 参加者24名
12月 7日 高齢透析患者の看護勉強会 参加者16名
12月11日 KYT勉強会 参加者43名
12月14日 避難訓練

さいわい鹿島田クリニック

- 10月 7日 職員災害訓練
- 10月 8日 緊急時対応勉強会 参加者30名
- 10月22日 糖尿病性腎症患者の看護の勉強会 参加者21名
- 11月 5日 患者移動介助の仕方の勉強会 参加者18名
- 11月 9日 透析導入期患者の看護 参加者17名
- 11月19日 レミッチ、ドブスの勉強会 講師:鳥居薬品 参加者20名
- 11月29・30日 患者災害訓練
- 12月 5日 緊急連絡用直通内線電話設置 (地下駐車場～CL)
- 12月10日 フットケアの勉強会 参加者21名

さやま腎クリニック

- 10月23日・24日 第3回透析医療マネジメント研究会
さやま腎クリニック開催担当施設
参加者 外部施設49名・石心会35名
- 10月31日 患者会(泉会)日帰り旅行『善光寺参拝とリンゴ狩りの旅』
参加者 患者 (家族含む) 23名・職員14名
- 12月22日 救急シミュレーション
さやま腎クリニック1階更衣室での急変対応 参加者31名
- 院内勉強会
11月25日 『リクセル勉強会』
講師:(株)カネカメディックス / 田代氏 参加者20名
12月15日 『ノロウィルスについて』 講師:看護師 / 齋藤 (理) 参加者40名

昭島腎クリニック

- 11月28日 学会発表 三多摩腎疾患治療医会
『当院における業務改善に対する取り組み～止血法変更を試みて～』
講師:看護主任 / 橋本 多美 参加者34名

- 院内勉強会
10月22日 『ここがポイント!透析患者さんの栄養管理』
講師:中外製薬 参加者33名
10月28日 『フットケアにおけるチーム医療』
講師:大正富山医薬品 参加者32名
12月 9日 東レ T R3000MA 講習会 講師:東レメディカル 参加者27名
12月 9日 看護研究発表『効率的なフットケアをめざして』
講師:看護課 / 中坂 理恵子 参加者32名

アルファメディック・クリニック

- 10月28日 消防訓練(川崎テックセンター共同防火管理協議会) 参加者 2名

川崎健診クリニック

- 10月 3日 アスリード株式会社 乳房超音波検査を学ぼう!2010セミナー
参加者2名
- 10月20日 神奈川県保険医協会 スタッフのための接遇マナー講習会
参加者2名
- 11月 5日 公益財団法人 結核予防会第24回結核予防会
マンモグラフィ講習会 参加者2名
- 11月17日 神奈川県保険医協会 スタッフのための接遇マナー講習会
参加者2名
- 12月18日 東日本メディコム株式会社
保険審査の最新事情2010セミナー 参加者1名

新緑会脳神経外科

- 院内勉強会開催
10月27日
講演①『肩関節のMRI診断』 講師:横浜市大整形外科 / 瀧 直也先生
講演②『当院リハビリテーション科における患者満足度分析』
講師:リハビリテーション科 科長 / 麻生 義行
講演③『インシデント報告と対策について』 講師:院長 / 横田 尚樹
参加者 44名

立川介護老人保健施設「わかば」

- 勉強会 (施設内)
10月29日、11月8・18日 『汚物処理について』講師:白十字 (株) 参加者91名
12月12日 キャリア形成訪問指導事業研修『セーフティマネージメント』
講師:目白大学短期大学 / 加藤先生 参加者34名
(施設外)
11月10日～12日 全国老健大会(岡山) 参加者6名 (演題発表1名、その他5名)
- 施設内行事
11月26日 ボランティア交流会 参加者12名
12月25日 クリスマス会 参加者 入所・通所利用者、職員

立川市北東部わかば地域包括支援センター

- 地域活動
10月15日、11月12日、12月17・25日 男の料理教室
(於 幸学習館、若葉会館) 参加者 延67名
毎木曜日 麻雀サロン(障害者や高齢者)
(於 老健わかば2F 地域交流ルーム 参加者 延89名
10月4日、11月1日、12月6日 豊生会サロン(介護教室)(於 豊生会館) 参加者 延89名
10月18・25日、11月8・22日、12月6・13日 ひだまりサロン
(地域高齢者おしゃべり会)(於 幸児童館) 参加者 延15名
11月17日 保健福祉講座『おいしく食べて健康に』学習会
(於 幸福社会館) 参加者 18名
11月20日 男性介護者の集い 立川社協在宅係長を招き勉強会
(於 幸学習館) 参加者 7名
10月9・23日、11月13・27日12月11・18日
スマイルサロン(高齢者孤食防止食事会)(於 たけの屋跡店舗) 参加者 延59名
12月17日 若葉グッドネイバー共催「老人施設っていくらかかるの?」学習会
(於 若葉会館) 参加者 64名
12月2・6日 五者懇談会(自治会、U R 機構管理組合、民生委員、
地域福祉コーディネーター、地域包括支援センター)
(於若葉町団地集会所、けやき台団地集会所) 参加者 22名
地域(若葉町・栄町)情報誌(まちなつと)冬号 11月1日発行
若葉町・栄町の約1,200世帯配布

特別養護老人ホーム「オリーブ」

- 10月10日 オリーブ運動会 参加者65名
- 10月25日 入居者100歳祝いのため市長訪問 参加者20名
- 10月27日 歌と踊りの集い 参加者60名
- 10月30日～11月1日 狭山市市民文化祭 入居者の作品展示
- 11月 1日～5日 埼玉大学教員免許取得実習 1名受入
- 11月 7日 介護者懇談会 参加者13名
- 11月19日 消防訓練 参加者26名
- 11月19日 幼稚園児との交流 あおば幼稚園園児受入33名
- 11月23日 そば打ち実演 (特養・デイフロアにて2回の実演)
- 11月25日 狭山市立中央中学校 3年体験学習 6名受入
- 12月 2日 狭山市立山王中学校 特別支援学級10名受入
- 12月 7日～9日 狭山市立東中学校 1年3days体験学習 6名受入
- 12月10日 美咲会 大正琴演奏 参加者63名

いきいき訪問看護ステーション鶴ノ木

- 10月13日 狭山市内訪問看護ステーション合同看護研究発表会 参加者 15名

狭山市入間川・入間川東地域包括支援センター

- 地域活動
10月4日、11月8日、12月6日 入間川地区民生委員、入間川東地区民生委員との
定例情報交換会(狭山市社会福祉会館) 参加者延 80名
10月17日 『敬老会』(鶴ノ木第一自治会館) 参加者 63名
10月21日 『食事会』(老人福祉センター宝荘) 参加者 25名
11月18日 『入間川婦人会福祉講座』(中央公民館)参加者 30名
- 出前介護予防教室(祇園自治会館)
10月 6日 『無理せず続けてできる運動』、
10月13日 『バランスよい食事をよくかんで』参加者延37名
- 10月 7日、11月4日、12月3日 『介護予防イベント』
(御幸1丁目自治会館)(峰公民館)(鶴ノ木第一自治会館) 参加者 延44名
- 10月20日 元気ハツラツ教室
『栄養のお話とお口の清潔について』(中央公民館)参加者48名
- 12月 2日 地域型認知症予防プログラム『脳力アップ教室』(入曽公民館)参加者 9名
- 12月16日 平成22年度第3回『日常生活圏会議』(地域ケアセンター会議室)参加者22名